

2005年7月7日

## 金沢スケートセンター閉鎖へ

県内唯一のスケートリンクがある金沢スケートセンターが、利用客の減少から、今年の秋で閉鎖する見通しとなりました。

金沢市西泉2丁目にある金沢スケートセンターは、1963年にオープンし、県内唯一のスケートリンクとして営業を続けてきました。

しかし、利用客の減少に歯止めがかからず、厳しい運営が続き、関係者によりますと運営会社は、今年の秋でスケートリンクを閉鎖する見通しになったということです。

これまで県アイスホッケー連盟など関係団体との間で存続に向けた話し合いが続けられてきましたが、会社側からは、これ以上の運営は難しいとの見解だったということです。

県アイスホッケー連盟の森岡伸之専務理事は「アイスホッケーは他に練習する場所が無く、県などとも話し合って今後の対応を協議していきたい」とコメントしています。

また、県スポーツ健康課の末平佑二課長は「極めて残念。関係団体の話を聞くなどして今後の対応を考えたい」と話しています。

神戸新聞

## 姫路アリーナ「再開支援を」1万人署名 市に提出

2006/06/22

県内唯一の通年リンクとして四十年以上にわたって市民や競技選手らに親まれてきたが、施設の老朽化に伴い、五月十四日を最後に休業している「姫路アリーナ」(姫路市延末)について、姫路スケート協会(梅谷悦子理事長)は二十一日、存続を求める市民ら一万三百人分の署名簿を石見利勝市長に出した。

同協会は五月二十二日、同アリーナの営業再開などへの財政支援を求め、市に要望書を提出。署名活動は休業直後から取り組んでいた。

市長に署名簿を手渡した梅谷理事長は「このままでは学生らの練習場所が七月からなくなってしまう。民間の支援で再開にこぎ着けたいが、行政にも応援してほしい」と要請。石見市長は「休業は残念。(存続に向け)何とか頑張ってみよう」と述べることになった。

今後もスケート協会として、地元企業などに営業再開への支援を働きかけていくという。

同アリーナは一九六四年完成。ニチレイ(本社・東京)などが出資する会社が運営してきたが、施設の老朽化が進み、改修に多額の費用がかかることなどから休業が決まった。夜間の貸し切り営業は六月末まで続ける。(佐々木道哉)

平成18年9月24日現在

